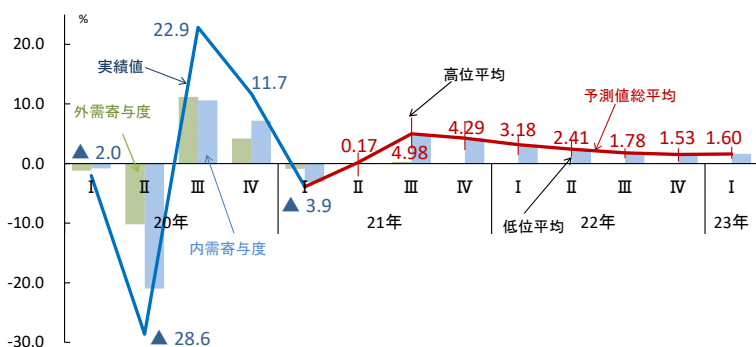


1 2021年4～6月期の実質経済成長率(前期比年率)は0.17%、7～9月期は4.98%。

21年4～6月期の実質経済成長率(前期比年率)は0.17%、7～9月期は4.98%となり、ともに1～3月期のGDP速報値公表前に集計した前月調査より下方修正された。



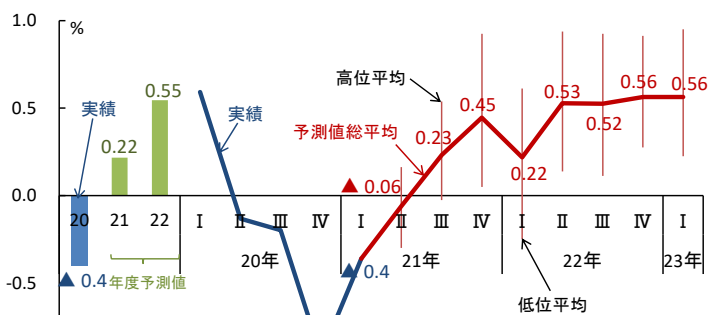
◆21年II期(4～6月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP前期比年率(前期比)	民間最終消費支出	民間企業設備投資	財貨・サービスの輸出	財貨・サービスの輸入
0.17 (0.04)	▲0.34	0.79	2.25	2.15

(注) 内訳4項目は前期比。

3 消費者物価上昇率(前年同期比)

21年4～6月期は▲0.06%で、7～9月期にプラスに転じる。年度でも0.22%となり、以降はプラスが続く見込み。



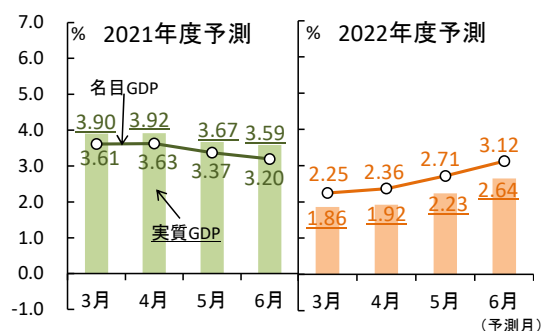
(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

(特別調査) 2023年度CPI上昇率予測

平均…0.73% (高位平均…1.29% 低位平均…0.34%)

2 実質経済成長率は21年度3.59%、22年度2.64%。

21年度の実質経済成長率は3.59%と3年ぶりにプラスに転じる。22年度は2.64%の見込み。名目成長率も21年度以降プラスが続く。



(特別調査) 2023年度実質GDP成長率予測

平均…1.34% (高位平均…2.15%、低位平均…0.73%)

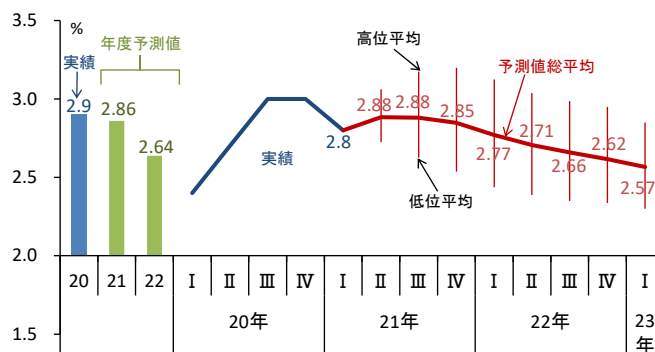
	2021年度	2022年度
内需寄与度	2.5 (3.2/1.9)	2.6 (3.3/1.9)
うち民需	2.1 (2.8/1.5)	2.4 (3.2/1.7)
うち公需	0.5 (0.7/0.2)	0.2 (0.5/▲0.1)
外需寄与度	1.1 (1.5/0.8)	0.1 (0.4/▲0.3)
実質GDP成長率	3.59 (4.36/2.98)	2.64 (3.34/1.95)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

4 失業率

21年4～6月期に2.88%へ上昇、10～12月期以降23年1～3月期まで低下が続く。



5 21年4～6月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、21年4～6月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「民間住宅投資」、「政府最終消費」、「公的固定資本形成」だった。（回答数37）

(実質)	民間住宅投資	民間在庫変動	公的固定資本形成	政府最終消費	公的在庫変動
上昇	32	4	27	28	0
横ばい	1	15	2	6	36
低下	4	18	8	3	1
回答数	37	37	37	37	37

(注) フォーキャスター数(名)。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

6 景気の転換点・・・18年10月が山

18年10月の景気転換点(山)(政府見解、暫定)の次の景気転換点(谷)はもう過ぎたかどうかを聞いた。(回答数36)

・はい(=過ぎたと思う人)・・・36名(前月調査36名)

転換点(谷)は2020年4月・・・1名、2020年5月・・・34名、2020年7月・・・1名

・いいえ(=過ぎていないと思う人)・・・0名(同0名)

転換点(谷)を過ぎたと思う人にその次の景気転換点(山)も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい(=過ぎたと思う人)・・・1名(前月調査1名)

転換点(山)は2020年12月

・いいえ(=過ぎていないと思う人)・・・35名(同35名)

今後1年以内に転換点(山)がくる確率の予測の平均・・・24.1%(同24.6%)

転換点(山)を過ぎたと思う人にその次の景気転換点(谷)も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい(=過ぎたと思う人)・・・0名

・いいえ(=過ぎていないと思う人)・・・1名

今後1年以内に転換点(谷)がくる確率の予測の平均・・・80.0%

7 (特別調査)金融政策と金利見通し

1) 金利見通し

21、22年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期政策金利は、21年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、22年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。(回答数37)

長期金利の誘導目標は、21年末は回答者全員が現行並みの「0.0%以上0.1%未満」と回答し、22年末も「0.0%以上0.1%未満」が多かった。(回答数37)

長短金利の予想値分布(%)		▲0.3未満	▲0.3～▲0.2	▲0.2～▲0.1	▲0.1～0.0	0.0～0.1	0.1～0.2	0.2～0.3	0.3～0.4	0.4～0.5	0.5～0.75	0.75～1.0	1.0以上
		短期の政策金利	現行=▼	▼									
	2021年末				37								
	2022年末			1	36								
長期金利の誘導目標	現行=▼	▼											
	2021年末				37								
	2022年末			1	35	1							

(注) フォーキャスター数(名)。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上0.0%未満」の意味。

2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、枠組みの変更はないなど3名のフォーキャスターが答えた。

[詳細は9ページ参照]

8 (特別調査)米国金利

1) 政策金利見通し

21、22 年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。21 年末は回答者全員が「0.0%以上 0.25%未満」と答えた。22 年末も「0.0%以上 0.25%未満」が多かった。（回答数 37）

米FFレートの予想値分布(%)	▲1.0未満	▲1.0 ～ ▲0.75	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0.0	0.0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5
2021年末						37					
2022年末						36	1				

(注) フォーキャスター数(名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上1.0%未満」の意味。

2) 長期金利見通し

21 年 6 月末、12 月末、22 年 6 月末、12 月末の米国の長期金利（10 年国債）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、21 年 6 月末は 1.5%以上 1.7%未満、12 月末は 1.7%以上 1.9%未満、22 年 6 月末は 1.8%以上 2.0%未満、12 月末は 2.0%以上 2.1%未満だった。（回答数 36）

米国の長期金利 (10年国債)の 予想値分布(%)	0.7 ～ 0.8	0.8 ～ 0.9	0.9 ～ 1.0	1.0 ～ 1.1	1.1 ～ 1.2	1.2 ～ 1.3	1.3 ～ 1.4	1.4 ～ 1.5	1.5 ～ 1.6	1.6 ～ 1.7	1.7 ～ 1.8	1.8 ～ 1.9	1.9 ～ 2.0	2.0 ～ 2.1	2.1 ～ 2.2	2.2 ～ 2.3	2.3 ～ 2.4	2.4 ～ 2.5	2.5 ～ 2.6	2.6 ～ 2.7
21年6月末	1					1	1	1	9	17	5	1								
21年12月末			1				1	1	3	5	7	7	5	6						
22年6月末				2			1	2	2		2	8	8	6	2	2			1	
22年12月末				1		1		2	2	1	2	1	6	10	4	2	1	1	1	1

(注) フォーキャスター数(名)。例えば「1.0～1.1」は「1.0%以上1.1%未満」の意味。

9 (特別調査)オリンピック開催

今回の予測に、21 年度のオリンピック開催を織り込んでいるかを尋ねたところ、36 名が織り込んでおり、1 名が織り込んでいないと答えた。織り込んでいない場合には、その理由を尋ねた。（回答数 37）

◆2021 年度のオリンピック開催を予測に織り込んでいるか

	はい	いいえ
オリンピック開催	36	1

(注) フォーキャスター数(名)。

◆予測に織り込んでいない理由

①開催経費がどの程度膨らむのか見通せない	0
②再延期・中止の可能性も否めない	1
③その他	0

(注) フォーキャスター数(名)。複数回答。

10 (特別調査)長期予測 (6 月、12 月に調査実施)

1) 実質 GDP 平均成長率

23～27 年度の実質 GDP の平均成長率は 0.88%、高位 8 機関平均は 1.24%、低位 8 機関平均 0.45%だった。（回答数 34）

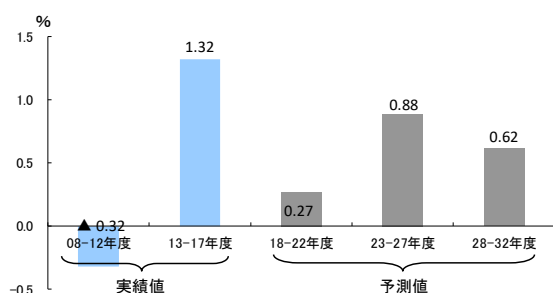
さらにその先の 28～32 年度は平均 0.62%、高位 8 機関平均は 1.05%、低位 8 機関平均は 0.20%だった。（回答数 31）

2) CPI 平均上昇率

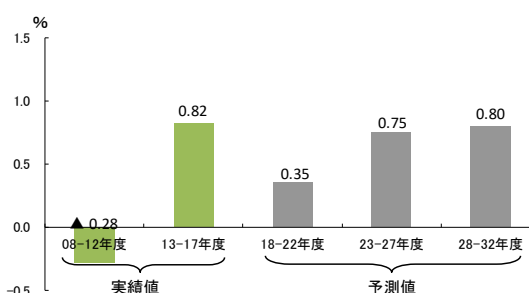
23～27 年度の平均消費者物価上昇率は 0.75%、高位 8 機関平均は 1.29%、低位 8 機関平均は 0.33%だった（回答数 34）

さらにその先の 28～32 年度は平均 0.80%、高位 8 機関平均は 1.34%、低位 8 機関平均 0.30%だった。（回答数 31）

◆実質 GDP 平均成長率



◆CPI 平均上昇率



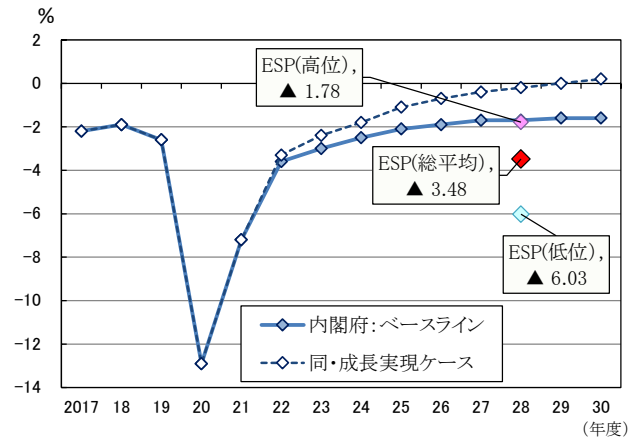
11 (特別調査) 国・地方の基礎的財政収支の具体的な水準

28年度に国・地方の基礎的財政収支の黒字化が可能か聞いたところ、回答者全員が達成されないと答えた。(回答数 34)

28年度の収支見通し(名目GDP比)は、平均が▲3.48%、高位8機関平均が▲1.78%、低位8機関平均が▲6.03%だった。(回答数 32)

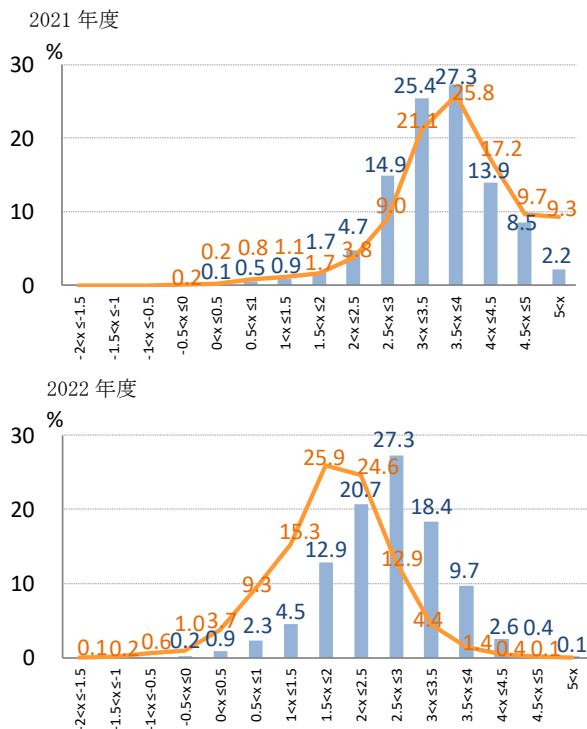
内閣府は1月の試算で、同年度の収支をベースラインでは▲1.7%、成長実現ケースで▲0.2%と見込んでいる。

◆国と地方の基礎的財政収支(名目GDP比)



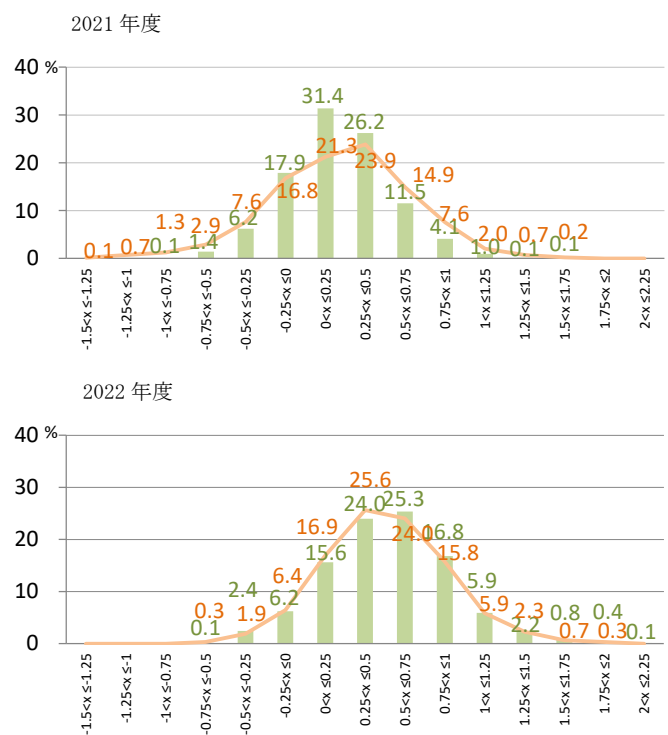
(資料) 内閣府「中長期の経済財政に関する試算」2021年1月

実質GDP増加率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



(注) 各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、21年3月の予測値。

CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



(参考) 海外主要3カ国・地域の実質GDP成長率予測(暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2020年	▲3.5	▲6.8	2.3
2021年	6.45 (6.27)	4.08 (4.02)	8.55 (8.61)
2022年	3.81 (3.69)	3.79 (3.75)	5.39 (5.48)

(注) 20年は実績値。()内は前月調査。

次回(2021年7月調査)の公表予定は7月8日頃